

Name:

ID:

Date:

Rater:

Oral DRS（口腔異常感評価尺度）

Tokyo Medical and Dental University Oral Dysesthesia Rating Scale

感覚尺度		0: なし	1: ごく軽度	2: 軽度	3: 中等度	4: 重度	5: 最重度	点数
A1. 異物感 ・付着感	異物がある・何かがくっついて いると感じる。「べとべとしたも の」「ざらざらしたもの」「釘」「ワ イヤー」「歯の間に詰まってい る」などと表現する。	全くない	疑わしい、もしくは正常 上限。 さほど煩わしくない。	明らかに感じるが軽 度。 ときおり感じる。 いくぶん煩わしい。	頻回、もしくは常に関 じ、煩わしいが、患者は 堪え得る。ぬぐう・歯磨 きなどで改善感を得る ことがある。	常に関じ、かなり煩わし く、患者は堪えがたいと 訴える。	非常に強く感じ、非常に 煩わしい。患者は堪え がたく、激しく訴える、も しくは不穏となる。	
A2. 滲出感 ・湧出感	「唾液」、「泡」、「粘液」、「砂の ようなもの」がじわじわ出る・ 次々に出てくる・湧き出すと表 現する。	全くない	疑わしい、もしくは正常 上限。 さほど煩わしくない。	明らかに感じるが軽 度。 ときおり感じる。 いくぶん煩わしい。	頻回、もしくは常に関 じ、煩わしいが、患者は 堪え得る。マウスピース など何らかの処置で改 善感を得ることがある。	常に出続けていると感 じている。 かなり煩わしく、患者は 堪えがたいと訴える。	非常に強く感じ、患者は 「溢れ出る」「口を閉め ていられない」と訴える こともある。非常に煩わ しい。	
A3. 牽引感 ・締め付け 感	「歯が締め付けられる」「唇が引 っ張られる」「歯が浮く」などの 感覚。	全くない	疑わしい、もしくは正常 上限。 さほど煩わしくない。	明らかに感じるが軽 度。 ときおり感じる。 いくぶん煩わしい。	頻回、もしくは常に関 じ、煩わしいが、患者は 堪え得る。	常に関じ、かなり煩わし く、患者は堪えがたいと 訴える。牽引感・締め付 け感により強い痛みを 訴える。	非常に強く感じ、患者は 異常感覚に抵抗するた めに器具や手を用い る、もしくは歪んだ表情 を持続する。	
A4. 動き感	歯や唇、顎が勝手に動くと感じ る。また歯茎の中で虫が動いて いる、何かが流れる、巡ってい ると訴える。	全くない	疑わしい、もしくは正常 上限。 さほど煩わしくない。	明らかに感じるが軽 度。 ときおり感じる。 いくぶん煩わしい。	頻回、もしくは常に関 じ、煩わしいが、患者は 堪え得る。	常に関じ、かなり煩わし く、患者は堪えがたいと 訴える。	非常に強く感じ、非常に 煩わしい。患者は堪え がたく、激しく訴える、も しくは不穏となる。	
A5. 不適合感	咬み合わせや歯のフィット感が 悪いと感じる。「顎・歯がずれて いる」「大きすぎる」など、位置 的・物理的な不適合感	全くない	疑わしい、もしくは正常 上限。 さほど煩わしくない。	明らかに感じるが軽 度。 ときおり感じる。 いくぶん煩わしい。	頻回、もしくは常に関 じ、煩わしいが、患者は 堪え得る。	常に関じ、かなり煩わし く、患者は堪えがたいと 訴える。	非常に強く感じ、非常に 煩わしい。患者は堪え がたく、激しく訴える、も しくは不穏となる。	
A6. 痛み	痛みを訴える。刺される・裂け る・ヒリヒリする、等。	全くない	疑わしい、もしくは正常 上限。 さほど痛くない。	明らかに感じるが軽 度。 ときおり感じる。 いくぶん痛い。	頻回、もしくは常に関 じ、痛いが、患者は堪え 得る。	常に関じ、かなり痛く、 患者は堪えがたいと訴 える。	非常に強く感じ、非常に 痛い。患者は堪えがた く、激しく訴える、もし くは不穏となる。	
A7. 温覚・味覚 変化	熱い・暖かい・冷たい・スースー する、などの温覚変化や、甘 い・苦い・酸っぱい・辛い、など の味覚変化。単なる温覚消失・ 味覚消失は含めない。	全くない	疑わしい、もしくは正常 上限。 さほど煩わしくない。	明らかに感じるが軽 度。 ときおり感じる。 いくぶん煩わしい。	頻回、もしくは常に関 じ、煩わしいが、患者は 堪え得る。	常に関じ、かなり煩わし く、患者は堪えがたいと 訴える。	非常に強く感じ、非常に 煩わしい。患者は堪え がたく、激しく訴える、も しくは不穏となる。	
1.5 点、3.5 点など、中間点をつけてもよい。								A. 感覚尺度：合計

Name: _____ ID: _____ Date: _____ Rater: _____

障害尺度		0: なし	1: ごく軽度	2: 軽度	3: 中等度	4: 重度	5: 最重度	点数
B1. 摂食	摂食が障害される。摂食内容が変化する。	全くない	摂食にわずかに困難を自覚するが、通常通り摂食出来る。	摂食出来るがやや困難を自覚する。摂食量がやや減少する。べとつくものを避けるなど、摂食内容が変化する。	摂食できるが困難を感じる。摂食量が明らかに減少している。やや体重減少を来している。	何とか摂食出来るが非常に困難で、明らかな体重減少を来している。	摂食できず、胃管や経静脈栄養を必要とする。	
B2. 構音	構音・発語が障害される。	全くない	構音・発語にわずかに困難を自覚するが、他覚的にはほぼ正常である。	構音・発語にやや困難を自覚する。他覚的にもやや不自然さを認める。	構音・発語に困難を自覚する。他覚的にも明らかなたどたどしさ・聞きとり辛さを認める。	構音・発語が非常に困難であり、他覚的にも聞きとり辛さが顕著である。	構音・発語は不可能である、もしくは諦めてほとんど言葉を発さない。	
B3. 仕事	患者の社会的役割が障害される。主婦であれば家事一般、学生であれば学業が仕事に相当する。 <u>口腔症状によるもの</u> に限定しない。	全くない ほぼ 100%	わずかに困難であるが、ほぼ通常通り仕事をこなしている。 90%以上	やや困難であり、仕事の効率もやや低下している。 「80%前後」 89～70%	困難であり、仕事の効率が明らかに低下している。 「50%前後」 69～30%	非常に困難で、仕事の効率は極度に低下している。ほとんど持続しない。「30%もない」 29%以下	行える状態に全くない。 ほぼ 0%	
B4. 対人活動・趣味活動	人と会う・出かけるなどの対人活動、もしくは読書・運動などの趣味活動が障害される。 <u>口腔症状によるもの</u> に限定しない。	全くない ほぼ 100%	わずかに困難であるが、ほぼ通常通り行っている。 90%以上	やや困難であり、活動量もやや低下している。 「80%前後」 89～70%	困難であり、活動量は明らかに低下している。 「50%前後」 69～30%	非常に困難で、活動量は極度に低下している。ほとんど持続しない。「30%もない」 29%以下	行える状態に全くない。 ほぼ 0%	
1.5 点、3.5 点など、中間点をつけてもよい。								B. 障害尺度: 合計

Name: _____ ID: _____ Date: _____

Rater: _____

C. Visual Analog Scale

C1. あなたのこれまでの経験を考慮し、今の時点における症状の重症度はどの程度ですか？

症状は全く
ない

考え得る限
り最も悪い

_____ mm

C2. もともと（治療前）と比較して、症状はどのくらいよくなりましたか？あるいは悪くなりましたか？

悪くなった

良くなった

_____ mm

Name:

ID:

Date:

Rater:

(メモ)

口腔異常感評価尺度 (Oral DRS)

Oral Dysesthesia Rating Scale: A tool for assessing psychosomatic symptoms in oral regions

Uezato *et al.* *BMC Psychiatry* 2014, **14**:359

Article URL: <http://www.biomedcentral.com/1471-244X/14/1696>

Tokyo Medical and Dental University Graduate School

Department of Psychiatry and Behavioral Sciences

1-5-45, Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8519, Japan

E-mail: uezato-tmd@umin.ac.jp

Download at: <http://www.tmd.ac.jp/med/psyc/research/oral-drs.html>
or at the mirror site: <http://www.tmd.ac.jp/grad/ompm/details8.html>

Created 2011.6.29, layout last modified 2019.4.1